

令和４年度 秋田県立美術館運営協議会（議事録要旨）

- 1 日 時 令和４年６月３０日（水） １４：００～１５：３０
- 2 場 所 秋田県立美術館 １階レクチャールーム
- 3 出席者 秋田県立美術館運営協議会委員 ７名
事務局（生涯学習課、公益財団法人平野政吉美術財団）５名

4 議事概要

（１）開会

（２）公益財団法人平野政吉美術財団業務執行理事（秋田県立美術館長）あいさつ

運営協議会委員の皆様には、県立美術館の活動に対し、御助言・御協力をいただいております。感謝申し上げます。

先日は、美術館が移転・開館してから90万人目となる来館者をお迎えした。また、開催中の「川瀬巴水展」についても、つい先日、来場者が1万人を突破し、喜んでいるところである。依然としてコロナ禍にあるものの、少しずつ県民の足が戻ってきていると実感している。

今後ともぜひ当館の活動を見守っていただきたい。

（３）生涯学習課長あいさつ

運営協議会委員の皆様には、日頃から文化芸術の振興や地域の活性化のため、御尽力いただいていることに感謝申し上げます。

平成25年の移転・開館から9年目を迎え、この間、平均すると年間約10万人の来場者をお迎えしてきた。新型コロナウイルスの蔓延により、美術館も大きく打撃を受けたが、来場者は回復してきており、6月13日には、開館から90万人目のお客様をお迎えすることができた。これもひとえに、美術館を応援してくださる皆様方のおかげと深く感謝している。

本県では、目まぐるしく変化する時代に対応するべく、今年3月に「新秋田元気創造プラン」を策定した。プランでは「良質な文化芸術に親しむ機会の充実と、文化遺産の保存・活用」を、重要な施策の一つとして掲げている。これからも、時代の変化に柔軟に対応しつつ、文化芸術が社会に果たす役割を見失わずに、県民により親しまれる美術館運営に努めてまいりたい。

（４）出席者紹介

（５）報告

①令和４年度 秋田県立美術館事業の概要について

- ・令和４年度 事業概要について（特別展、企画展、教育普及事業）
- ・令和２～４年度 秋田県立美術館月別入館者数
- ・令和２～４年度 展覧会別入場者数
- ・令和２～４年度 県民ギャラリー入場者数
- ・令和２～４年度 セカンドスクール利用数

②ミュージアム活性化事業について

- ・令和４年度 ミュージアム活性化事業について

- ・令和4年度 ミュージアム活性化事業「特別展」の評価の実施について
- ・令和5～7年度 ミュージアム活性化事業3カ年計画について

③その他

- ・特になし

(6) 協議(意見交換) (○: 協議会委員 ■: 事務局)

①令和5年度～令和7年度ミュージアム活性化事業3カ年計画について

■特別展は、他館等からの借用作品で成り立っていることがほとんどであるため、予定が変更になる場合もある。提示したものは、あくまでも現時点における計画であるが、御意見等いただきたい。

○特別展をざっと見る限り、来場者の受けがいろいろという印象を受けた。様々なねらいや思いはあると思うが、美術館に来ていただくということを考えたときに、よく考えられたセレクションだと感じる。

絵本原画展も計画されているようだが、「ごんぎつね」などは、長い間、小学校の教科書にも掲載されているので、幅広い層に親しみを持ってもらえるのではないかな。

秋田県の小・中学校における図画工作科・美術科では、具象が扱われることがやや多いように感じている。他県からの学生は、クロッキーという用語を知らないことが多いが、秋田市では、現在もクロッキー展などを開催している。3カ年計画の中の展覧会は、具象画を取り上げたものが多いが、そういった県民の嗜好も勘案したものなのかなと感じた。

○限られた予算の中で展覧会を企画するのは大変なことだと思う。3カ年計画を見てみると、内容はバラエティに富んでおり、よく考えられていると感じる。

斎藤真一の作品展は以前も開催されたと思うが、あれは、心に染みる良い企画であった。また観られると思うと嬉しい。また、いくつか浮世絵展が入っているようだが、これも昨今のトレンドをとらえたものなのかなと感じる。

○内容的にはバランスよく組み込まれていると思う。かなり苦勞して組まれていることが分かる。開館して来年で10年ということだが、県民ニーズに応える内容であるかという目的は達成されていると感じる。ただ、秋田の文化の良さを県内外に発信するという点は、少し弱いのではないかなと思う。

藤田嗣治と斎藤真一展は、旅にまつわる作品がテーマということで、この二人の世界観をどのように取り上げていくのか楽しみである。

個人的には、令和7年度に予定されている現代作家の大規模展「タグチ・アートコレクション」が非常に楽しみである。

○限られた予算の中で、非常に苦勞されていると思う。

特別展ではなく、平野コレクションの作品ではあるが、県立美術館に来て、大壁画ギャラリーに展示されている藤田嗣治の《眠れる女》が観られるのを楽しみにしている。現在は展示しているか。

■現在は展示していない。

○県立美術館に来て、藤田嗣治の大壁画《秋田の行事》と《眠れる女》をみると、気持ちがほっとする。

○県立美術館は、文化庁のアートプラットホームになっている。ドイツのルードヴィヒ美術館は市民参加型の展覧会をおこなっている。ドイツの博物館のような展覧会も行っているのではないかな。

②その他、美術館の運営全般でお気づきの点があれば御指摘いただきたい。

○絵の解説文を見て思うことだが、文章が長い。説明文は、もっと文字数を少なくして簡潔に分かりやすくしてほしい。例えば「川瀬巴水展」にしても、版元、彫り師、絵師、摺師とあるが、その関係を図にして示した方が理解しやすい。もう少し見る側に立って、分かりやすくする工夫があっても良いのではないかな。

■解説文などは、作家や作品などにより興味を持ってもらえるよう、見やすさや分かりやすさを考えてまいりたい。

○特別展もいいが、私は企画展が好きである。例えば横手市の近代美術館は、5階の特別展はもちろん素晴らしいが、6階のコレクション展に学芸員の知恵が集約されていると思っている。

県立美術館では、令和3年度の企画展「秋田の建築と風景」は、素晴らしい内容だったと思う。あのような、日頃の研究成果を発表する機会は大切にするべきだ。藤田嗣治ファンも多いし、今年の企画展「藤田嗣治が愛したもののたち」もミステリアスな感じがして非常に楽しみである。

○地道な常設展示は、学芸員の力量が試される、非常に重要な部分であると思う。以前、病気で余命がいくばくもないという方が、車椅子で美術館に来館されたことがあった。どんな思いで観に来られたのだろうと思った。

県立美術館には《秋田の行事》があるが、変わらずにそこに展示してあるということも大事であると思う。そうしたことが、来場者の心の拠り所となっていることもある。

■本日は貴重な御意見を賜り、大変有り難かった。秋田県立美術館の基本方針にのっとり、今後も展示事業、教育普及活動等に励んでまいりたい。次回は2月に、書面開催を予定している。今後ともぜひ美術館に御意見をお寄せいただきたい。

(7) その他

・特になし

(8) 閉会